川内地区技術者研修会

技術力が経営の安定に

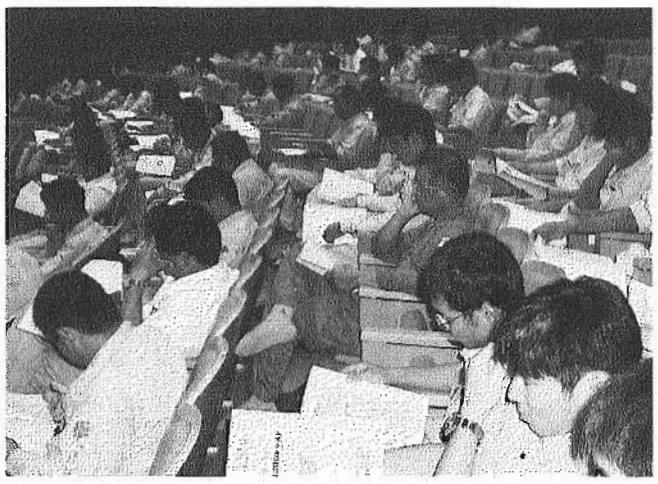
県土木部

県土木部主催の16年度建設技術者研修会（川内地区）が19日、川内市の国際交流センターであり、県建設業協会川内支部会員や非会員の技術者ら130人が受講した。これまでに徳之島地区を皮切りに各地で開催、川内地区は第10回目の開催になる。

福森静県川内土木事務所長が「私どもの使命は立派な財産を後世に残すことである。そのため事業推進に当たっては緊急性・重要性等を峻別し、良いものを、より安く、より早くの観点から事業を進めているところである。請負者にあっては、コスト削減など経営の革新に努め、また技術者は責任と誇りをもってご活躍をいただきたい」と激励した。

田代藤夫県建設業協会川内支部長は「業界はかつてない状況に立たされている。数少ない工事の中で、皆さん方技術者には適正な利益と立派な工事成績を上げる責任がある。現場の技術員の力こそが経営の安定につながる。会社の行く末は皆さんの双肩にかかっている」とも言っていい。より一層の技術向上を図られ、社会のため、会社のための努力をお願いしたい」と要請した。司会進行は池田洋（ふかし）県建設業協会業務部長。

研修会では、吉永謙二土木部技術管理課技術主査「施工における留意点」、井手久奉川内土木事務所次長「15年度土木工事の検査結果について」、中島誠土木部技術管理課技術主幹「施工計画書の作成について」、宮原光治川内土木事務所技術主幹「16年度土木工事積算基準の改定について」と題してそれぞれ解説した。



130人の技術者が受講した研修会
＝川内市の国際交流センターで

剪定作業に取り組む参加者
＝鹿児島市の市立伊敷小学校で

伊敷・草牟田

造園業者が奉仕作業

技能生かし地域貢献

地域の美化に役立てば―と、鹿児島市の伊敷・草牟田地区の造園業者らが19日、同市伊敷5丁目の市立伊敷小学校（高橋信夫校長、児童399人）の校内に茂るクスやセンダンなどの剪定作業に取り組んだ。

奉仕作業を行ったのは㈱谷山グリーンサービス（谷山義久社長）をはじめ九州緑地開発㈱（中島朗社長）、㈲山下造園設計（山下俊郎社長）、㈱光林緑化（村上敦務社長）、㈲横瀬造園土木（横瀬精蔵社長）の5業者で、高所作業車や回収車両を導入して校内に茂る大小全ての樹木の剪定作業に取り組んだ。

今回の奉仕作業について谷山社長は「九州緑地開発さんなど快く賛同をいただいた。素晴らしい環境の下で勉学に励んでもらえれば―との思いで、今回初めて取り組んだ。今後も小・中学校を中心に実施したい」と積極的なボランティア活動への意気込みを語った。

作業の様子を見つめていた高橋校長は「職員をはじめPTAでは到底できない作業。言葉では言い尽くせないほどうれしい。全員が新たな気持ちで2学期を迎えられると思うと感謝の気持ちでいっぱいです」と感謝とねぎらいの気持ちを表した。

法の順守を呼びかけた説明会
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

内閣府

個人情報保護法説明会

事業者ら600人受講

内閣府は19日、鹿児島市の県市町村自治会館で個人情報保護法説明会を開き、県内事業者、市町村・県職員ら約600人が制度の基本的な考えと、個人情報の保護の重要性を学んだ。

今回の説明会は、17年4月1日から全面施行される「個人情報の保護に関する法律」について、事業者や発注者に対し個人情報の保護と、法制定の周知、徹底を図るため実施。

同日は、1部、2部に分け内閣府国民生活局の担当職員が説明。うち、1部では約300人の県内事業者を対象に「法整備の背景や体系、基本方針、事業者の順守すべき個人情報の取り扱いルール、施行に向けたスケジュール」などを解説した。この中で、個人情報の保護に行政を明すことが高度情報通信社会の実現を可能にするもので、事業者の自律的な取り組みと、官・民にわたる関係機関の連携が重要。また、個人情報の取得に関しては、あらかじめ利用目的を個人に通知し、それ以外の目的に使用してはならないなど、適正な取得と利用を呼びかけた。

2部では、市町村・県職員を対象に個人情報保護法における地方公共団体の役割、保有する個人情報の保護、苦情処理の仕組み、権限の行使などについて説明。多種・多様な個人情報を大量に保有している地方公共団体は、公的機関にふさわしい取り扱いが必要であることなどを述べた。

磯天神菅原神社 駐車スペース

桜島測量、斜木建設で整備

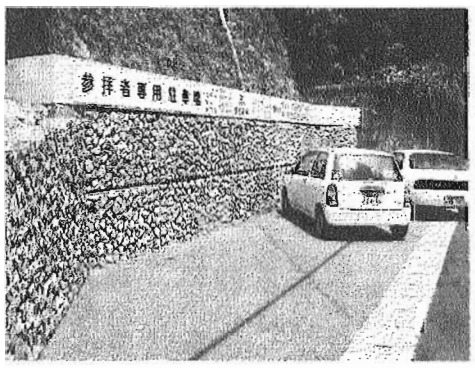
鹿児島市吉野町の磯天神菅原神社（小田原秋則宮司）に駐車場が完成し、このほど安全祈願祭を執り行った。同神社には、これまで駐車スペースが1台分しかなく、「参拝者に気軽に来てもらいたい」などの声から駐車場整備に踏み切った。

神社前は、祇園之洲と仙巌園前を結ぶ片側一車線の市道。通りは、交通頻度が高く、初詣でや受験シーズンなどは、参拝者が路肩に駐車し、渋滞の原因ともなっていた。このため、市の許可を得て、市道わきの山肌を削り、幅約10㍍、奥行き約5㍍のスペースを確保、乗用車3台が駐車できるようになった。設計・監理を㈱桜島測量設計事務所、施工を斜木建設㈱が担当。

小田原宮司は「以前は駐車場もなく、参拝者にも迷惑をかけたが、今回整備されたことにより、この伝統ある神社を次世代に残していけるよう、少しでも便宜を図り、皆様に知ってもらえる神社になるよう、今後も努力していきたい」と語った。

同神社は学問の神で知られている菅原道真を祭っている。また、道真公が子福者だったこともあり、安産の神が祭られていることでも知られている。同神社では、地鎮祭、起工式、竣工式などの出張祭典も執り行っている。

問い合わせは、菅原神社（鹿児島市吉野町磯96678 ☎099・247・9518）まで。



今回整備された駐車場（上）と本殿

県林務水産部林業振興課長に就任した

吉野 示右 氏

かお…人

森林計画、林道、担い手育成、木材利用推進、しいたけ等の特用林産物の振興等と多様で幅広い事業を推進する林業振興課。さまざまな問題を抱える中での就任に、「未来ある森林、林業、木材産業の構築に向けて尽力してまいりたい」と抱負を語る。

木材価格の低迷や担い手不足等により厳しい状況が続いているが、「地球温暖化防止など新たな要請もある。森林整備を着実に進めるとともに、かごしま材の利用推進や木材の海外輸出など積極的な施策の推進にさらに努めたい」と話す。

昭和59年、京都大学大学院農学研究科を修了後、農林水産省に入省。これまでに、青森営林局久慈営林署長、林野庁経営企画課企画官、木材流通課補佐などを歴任しているが、九州での勤務は初めて。平成14年に県林務水産水産部参事（森林計画）に就任以来、今年で3年目となる鹿児島の印象を「温暖で自然が豊か。食べ物も焼酎もうまいですね」と語る。

かごしま材の利用促進を

趣味は読書、映画鑑賞、スキー。好きな言葉は、ハードボイルド作家であるレイモンド・チャンドラーの〝タフでなければ生きていけない。優しくなければ生きている資格はない〟。最近では、健康のためにスポーツジムに通い、週に数回汗を流す。奈良県出身。45歳。

（鹿島邦友・報道部主任）